

1. 研究課題名：
「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化
に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属
竹内恒夫（名古屋大学大学院 環境学研究科）



3. 研究実施期間：平成 25～27 年度

4. 研究の趣旨・概要

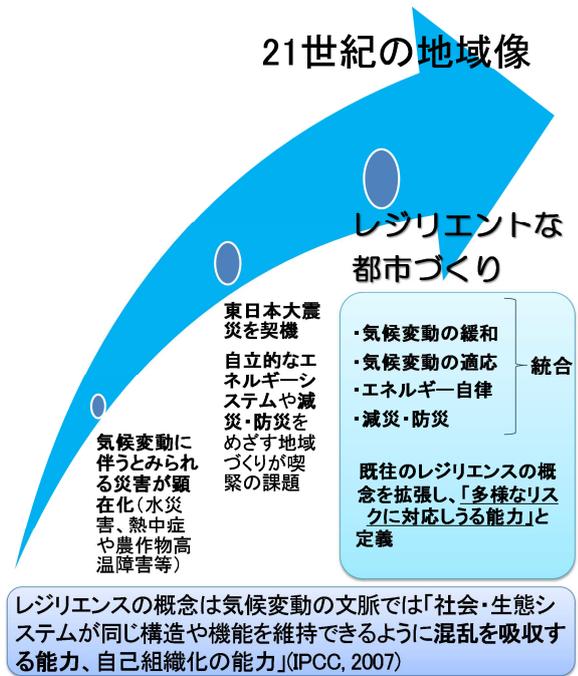
東日本大震災を契機に自律的なエネルギーシステムや減災をめざす地域づくりが喫緊の課題となり、また、水災害、熱中症や農作物高温障害等の気候変動に伴うとみられる災害が顕在化し、行政的にも、突発的、長期的な様々なリスクに対応しうる地域づくりが求められるようになってきている。特に、地域としてのエネルギー政策の確立が急務となっている。本研究は、気候変動における緩和・適応、地域のエネルギー自律及び防災・減災を統合する概念として「レジリエントシティ」を提起し、まちづくり、エネルギー、交通、健康・福祉などの分野で、指標、施策、評価方法などを開発し、「レジリエントシティ政策モデル」を試行しつつ構築するものである。

5. 研究項目及び実施体制

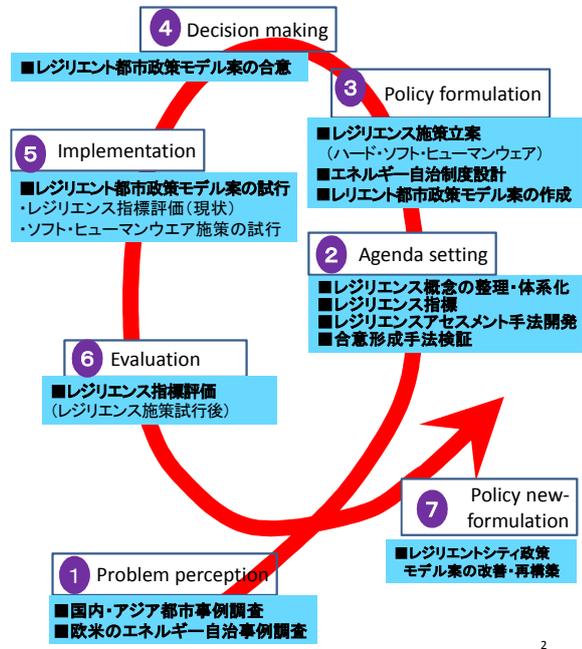
- ①政策モデル・シナリオ構築と政策手法の開発（法政大学）
- ②「エネルギー自治」の確立に向けた制度設計、合意形成手法の検証
（名古屋大学）
- ③レジリエント・アセスメント手法の開発と政策効果分析
（大阪大学）
- ④アジアの都市におけるレジリエンス評価と政策モデルの試行
（地球環境戦略研究機関）

6. 研究のイメージ

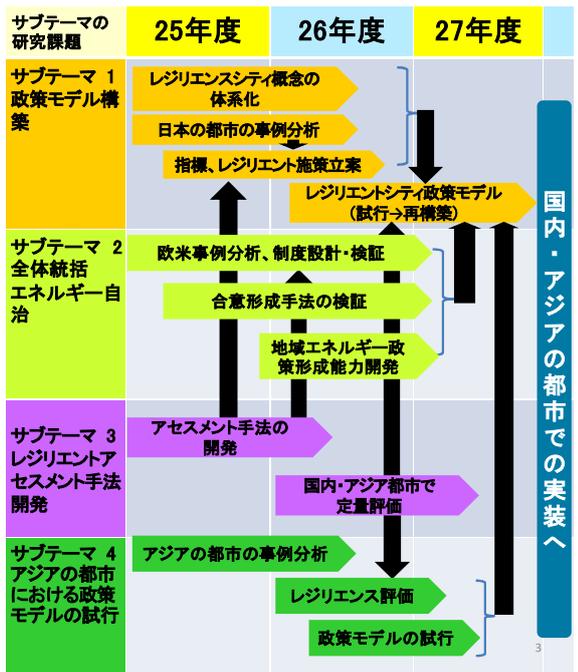
1 研究の背景・新規性



2 研究内容 (Policy Cycle)



3 サブテーマ間の分担関係



4 レジリエントシティ: 政策貢献

